

平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	金沢大学	整理番号	f002
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	臨地相互交流型教育・研究プログラム —保健学研究科・他大学・職能団体の知財と地域資源を活用した人材育成—		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 看護学、社会医学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (看護管理学、健康管理、地域保健、保健医療行政、国際保健)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 医学系研究科保健学専攻 [博士前期課程・博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 山本 博	
	(その他関連する研究科・専攻名) なし		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学の教育研究目標は、「教育重視の研究大学」の位置付けと学際性・総合性の特質を生かしつつ、基礎から実践に至る幅広い知の創造と、有為な人材を育成することにある。大学院は、医学系研究科、社会環境科学研究科、自然科学研究科に整備されている。加えて法務研究科(専門職大学院)、先端大学院大学などを持ち、各々の専門性を活かしながら、独創性をもつ研究者と学際的に協働できる人材育成を目標とした研究・教育の体制作りを行っている。平成21年には学部教育の体制から一貫した教育・研究システムが整いつつある。また本大学は北陸における基幹大学として研究・教育機能のニーズは高く、様々な機関との連携が実施されている実績もある。</p> <p>本事業は、臨地の課題を研究につなげ、専門職能団体および他大学との交流・連携・共同により「創造的・実践的な教育・研究者および医療人育成」のために、本学内に「保健学教育・研究コンサルティングシステムを確立・設置して組織的に展開する基礎となる</p>			

機 関 名	金沢大学	整理番号	f002
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>本専攻は、「21世紀の保健学を先導する知の創成及び新しい学問領域の形成と、それらの教育を通して、保健学の発展と人類の健康と福祉の向上に寄与する」という基本理念のもと、以下のような教育に取り組んできた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学院教育カリキュラムにおいては、専攻共通科目、領域共通科目の設定により幅広い視野を身につけるため、関連領域に関する知識と専門分野に関する専門的知識・技術をコースワークで修得可能とした。 2) 他専攻、他領域の教員を加えた3人以上の複数指導教員制により、保健学研究者として必要な幅広い能力や技術の修得を行っている。 3) 前期課程の領域・講座を後期課程と一致させ、研究者養成のための大学院5年一貫体制での教育カリキュラムを整備した。 4) 医療現場で仕事を持ちながら修学できるように、講義の昼夜開講、休日開講を行っている。 			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>本教育プログラムは、この取組をとおして「研究能力をもった医療人育成」と「医療現場からの課題を研究につなげる」ことを目指している。目標を実質化するため、大学院教育プログラムを専攻の内外に広げ、保健学研究者・教育者の育成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本教育プログラムは、保健学専攻内での協働はもとより医学系研究科内における他専攻・本大学の研究科、他の医療人養成大学、保健医療機関、看護協会、技師会、行政機関と連携し教育・研究を行う。また本教育プログラムは、保険医療機関と連携した臨地実践・応用教育プログラムと他の研究域との連携を重視した学際的教育プログラムよりなる。 <p>そして既に整備されている臨床教授制や双方向遠隔授業、インターネット授業、e-learning教材を利用した教育内容及び方法の整備と提携施設とのデータ集積システムとして確立する。</p> 2) 臨地実践・応用教育プログラム(保健医療機関):既に学部学生に行っている臨床教授制や双方向遠隔授業、インターネット授業、e-learning教材を利用する。そして、前期課程においては保健・医療の実践を経験するとともに、保健・医療の現場に課題を見つけ解決する能力を養成する。後期課程においては、保健学の基盤研究を保健・医療の現場にトランスレーションする応用能力を養成する。本コースの設定は、社会人入学生のリカレント教育としても効果的である。すでに石川県立看護大学、富山大学と連携している制度を、医療人生涯教育システムとしてカリキュラムの作成を行う。 3) 学際的教育プログラム(医学系研究科他専攻・他研究科):複数指導教員制やチーム医療、プロジェクト型研究に参加することにより、チーム医療・福祉の実践と研究、学際的研究方法を身に付けた新領域を形成できる能力やプロジェクト型研究を企画・実践できる能力を育成する教育システムを構築する) 			

機 関 名	金沢大学	整理番号	f002
<p>＜審査結果の概要及び採択理由＞</p> <p>「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。</p> <p>本事業の趣旨に照らし、</p> <p>①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p>②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p>の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p>なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p>[特に優れた点、改善を要する点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践や職能団体など、保健医療現場の学外施設との連携や各種のプロジェクト研究への大学院生の参加を通して、大学院教育の実質化を試みている点は、評価できる。また、社会人教育の充実、実施委員会による体系化、審査体制等が評価できる。 ・リハビリテーション科学分野の教員組織やカリキュラムの充実について更なる工夫が必要である。さらにプログラムの実現に向けてシステムの具体化を推進することが必要である。 			